

共同礼拝

2024年2月4日(日) 午前10時30分

午後4時

司式 牧師 姜 徑米

奏楽 河野和雄 長谷川ゆり子

前 奏

招 詞 詩 編 103編1～2節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

エレミヤ書 49章12, 13節 (旧1268)

マタイによる福音書20章17～28節(新38)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 20

説 教 「飲むべき杯」 牧師 高橋和人

祈 禱

讃 美 歌 352

聖 餐 式

献 金

頌 栄 540

祝 禱

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。
礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

2月の祈り

礼拝に向けての日々の歩みと心備えが常に導かれるように。

被災地の教会の伝道者・信徒が守られ、教会の復興が支えられるように。救援にあたる人々の働きが力づけられるように。

寒さ厳しい中であって。高齢、また、体調などにより礼拝に集うことがかなわないでいる兄弟姉妹たちを覚えて。

戦争と紛争の地に平和がもたらされるように。

今日の祈り

聖餐の恵みを覚え、主が肉を裂き血を流して贖いとなられて実現した救いの信仰を新たにすることができるよう。

愛する家族を主の御許に送った人々に、主が寄り添い慰めが与えられるように。

能登半島の震災の被災者、教会と教会員が守られるように。

病を負う兄弟姉妹とそれを支える人たちが守られるように。

「飲むべき杯」 高橋和人

マタイによる福音書20章17～28節

辛い時代である。人の限界を思わせられる。人の良いものは現れず、届かず、力弱く、もどかしい。しかし、人の持つ闇は深く、力強い。掘り返せば、いつも黒いものがにじみ出してくる。

主のもとに集まった人々は普通の生活をしている人々。皆それぞれの事情を抱えている。同時にそこに時代の陰も差し込んでいる。ローマとの二重支配の下で指導者たちは権勢を争い、スキャンダルがあり、それを指摘したヨハネは殺害されている。

当時も歪んだ力が覆っていた。矛盾と不条理に縛

られている。富や力、自分の正義、優越感と妬みがあり、その一方で弱さや貧しさや悲しみが絶えない。それでも、日常はそこにあった。日々の暮らしの中で主の言葉と業は人々を惹きつけた。心の貧しいものや悲しむものの幸いを聞き、天の国の姿を知り、憐みに触れ主イエスに従うものがいた。

人は多くのものを抱えて生きている。主イエスに期待したことも様々であった。しかし、主イエスの向かうところは明白であった。

主の受難予告(①16:21, ②17:22)は三度目。「彼らは死刑を宣告して、異邦人に引き渡す。人の子を侮辱し、鞭打ち、十字架につけるためである。」と具体的だ。はっきりと十字架の死を見ておられる。

主の十字架と人の生きる日常は切り離せない。罪こそが人の問題だからだ。罪により神から隔てられて迷子となったものを取り返されるためだ。それはまだ隠され、十字架と復活の後に理解される。

弟子の母が子のために左右の地位を願う。正直な親の思いだ。その子たちも主が飲む杯を飲むことができるという。分かっていないのだ。

主は弟子たちに、支配者たちが民を支配するのは、神を知らない異邦人の仕方だという。権力を振るう「偉い人」は「大きい」という表現。人が求めるのはこの「大きい」ことだ。大きさ、力、誇りに生きる時、自分と罪に支配される。主は弟子の間ではそうであってはならない、仕える者、僕となれと言われる。主イエスが全ての人に仕えるため、自分の命を献げるために来たのと同じように。

教会は主に仕え、何よりも御言葉を聞く群れだ。主に仕え、互いに仕え、自分が大きくなることを退けていくときに、主が近づいて下さる。聖餐に主は仕えてくださっている。わたしの罪のための杯には小さくなって与ることができる。